



asahi.comへ

秋田の天気
【各地の天気】

秋田
表紙ページへ

ニュース

読者の広場

イベント

スポーツ

企画・特集

県内取材網

[Click Here!](#)

朝日新聞
購読申し
込み

統合型
データベース
asahi.com
perfect

●「エンジニアが書く小説とは」

「夢はかなう」——技師と歴史小説家の二足そわらじをはく鳴海風(本名＝原嶋茂)さんが秋大で文学賞への道のりを語る

愛知県在住のエンジニアで歴史小説家の鳴海風(ふう)さん(四七)が二日、秋田大学で開かれた日本機械学会東北支部の技術懇談会で講演した。テーマは「エンジニアが書く小説とは」。小説家になる夢を秘めていた大学生時代の話から、会社員と小説家の二足のわら

じをはく現在の生活までを語ることで、鳴海さんは「『願いはかなう』ということ若い人たちに伝えたかった」という。

鳴海さんは一九九二年、「円周率を計算した男」で歴史文学賞を受賞。昨年十月には、和算家の関孝和とキリシタンの深いかわりを描いた「算聖伝 関孝和の生涯」を出版した。

日中は原嶋茂さん(本名)として、愛知県刈谷市の自動車関連企業「デンソー」に勤務する。小説家・鳴海さんの出番がやってくるのは、午前零時を回るころ。毎日午前三時をめどに執筆にいそむ。

東北大の大学院を出たエンジニアで、所属学会は計測自動制御学会と日本機械学会。経歴は「理系人間」そのものだ。講演を企画した秋田大工学資源学部の機械工学科には、東北大時代の鳴海さんを知る先輩が三人いるが、「小説家を目指していたなんて、全然知らなかった」とある教授。「だれにも言いませんでしたから」と鳴海さん。大学院への進学も、実は小説に時間を割くためだったという。学生デビューをもくろんでいたが、デビューより就職が先に来た。その後も小説を書いていることは、周囲の理解を得られないと思って内証にしていた。

そんな中で、職場の後輩だった東野圭吾さんが江戸川乱歩賞を受賞した。彼も小説を書いていたとは全く知らなかった。今思い出しても、「これまでで一番悔しかった」出来事だ。

一方で、山本周五郎や藤沢周平の作風が好みだった鳴海さんは、知人から「第二の山本周五郎、藤沢周平はいらない」と忠告され、独自性を模索していた。ある日、図書館で目に留まった



自分の小説のテーマとなる和算について説明するエンジニアで歴史小説家の鳴海風さん＝秋田大学で

「和算の歴史」。繰ったページは小説の材料になりそうな内容に満ちていたうえ、小説家を目指す自分の「隠れ蓑(みの)」だった経歴が役立つと思った。

こうして仕上がった「円周率を計算した男」で歴史文学賞を受賞。鳴海さんの作家活動は社内でも知られるところとなった。東野さんが江戸川乱歩賞を受賞してから七年たっていた。



この日、鳴海さんが講演の最後に取り上げたのは、レストランのメニューに書かれていた「心想事成 万事如意」という言葉だった。「『心に想うことは成る、万事意のままになる』という意味でしょう」。我が意を得たり、とメニューを失敬してきた。

会社の研修で聞いた「成功の法則」にも、「願望を強く意識すること」という項目があった。そのときはぴんとこなかったが、十年以上たって、小説家として、会社員として、「その通りだ」と思うようになった。「だから若い人には、願いはかなうということを、心に留めておいてほしい」

二冊の本を出版し、今年もすでに出版計画が入っているが、「私はまだ成功者ではなく、夢を追い続けている」と話す鳴海さん。今は五十歳になったら、歴史小説家として執筆に専念したいと考えている。

講演を聴いた学生からは、「全体としておもしろかった」「会社の中でも、小説を書くなんてことができるんですね」「もっとエンジニアとしての姿勢を聞かせてほしかった」といった感想が聞かれた。
(2/7)



asahi.com に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています([著作権とリンク](#)、[プライバシー](#)、[広告掲載](#) についての説明ページへ)。

Copyright 2001 Asahi Shimbun. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.